

発生事例

— その他（労働災害） —

関東地方整備局 港湾空港部

令和 3年 3月

発生事例(その他;労災)

排水サクシオンホースをカッターで切断中、誤って自らの足を刺した

【事故概要】

カッターでサクシオンホースを切断していたが、手元が狂って勢い誤り右太股を刺した

発生状況



【発生原因】

- ①慣れや油断があり、手足元の確認と注意が不十分だった。
- ②カッターの刃先が体の正面となる体勢で切断した。
- ③危険予知活動(KY活動)の指導と安全意識の向上の教育を行っていたが、作業員への浸透が不十分だった。

【再発防止対策】

- ①緊急安全大会の開催及び緊急安全教育を実施する。
- ②KY活動を充実させる。
- ③当日の作業内容に関連した事故事例を全作業員に周知することで安全意識の高揚を図る。
- ④カッターの刃先が体の正面に来ない体勢で切断を行う。サクシオンホースは手ノコで切断する。
- ⑤注意喚起看板により更なる安全意識の高揚を図るとともにKY活動の推進を図る。

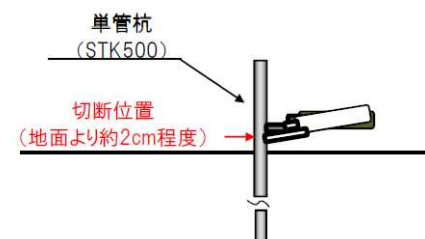
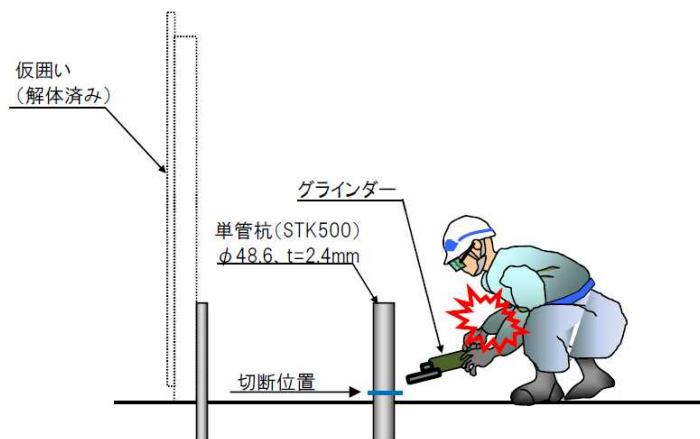
発生事例(その他;労災)

作業員がグラインダの弾かれにより接触し負傷

【事故概要】

被災者が仮囲いの単管パイプを切断中、グラインダが弾かれ右腕に接触し負傷した。

発生状況



再発防止対策(表示標・フォローアップ腕章)

【発生原因】

- ①難作業ではないが、グラインダーがはじかれたショックで手元を緩めた。
- ②回転工具使用時の危険予知が疎かになった。
- ③グラインダー切断作業経験はあったが単管を低位置で水平切断する作業は初めてだった。
- ④被災時両手でグラインダーを握っていたがはじかれたショックで手元が緩み手を離した。
- ⑤回転工具使用の危険性について作業時でも注意喚起ができる環境構築が不十分だった。
- ⑥JV職員及び下請主任技術者により作業手順について教育・周知したが、作業時の目配りが不十分だった。

【再発防止対策】

- ①特別安全教育を開催し、改めてグラインダー及び回転工具の作業時の適正使用及び危険性について再教育を実施する。
- ②作業手順周知会の際、各作業の担当を決め、担当作業員の技量見極めにより割り振りを検討する。
- ③固定ハンドル使用をルール化することによりグラインダー使用時の安定性について更に向上させる。
- ④回転工具類へ注意喚起表示(ステッカー)を行い、使用中でも注意喚起を促す。
- ⑤「新規入場者」と明示したヘルバンドを入場1週間の間取り付け、見える化を行う。
- ⑥朝礼後のKY時及び昼礼KY時(以前より実施)に新規入場者への本工事作業の適合性及びヒアリハット等のヒアリングを1週間実施する。

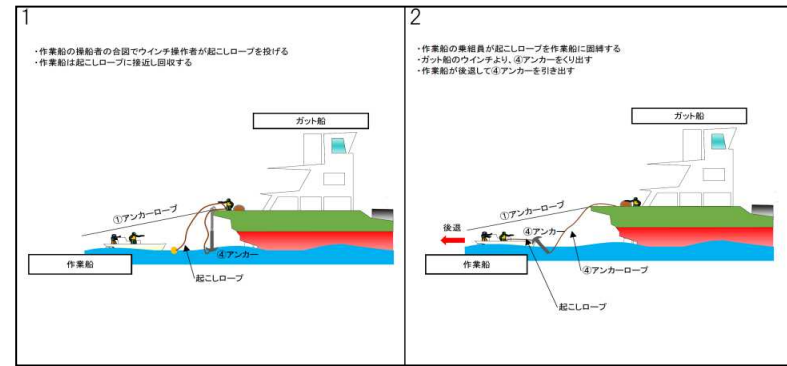
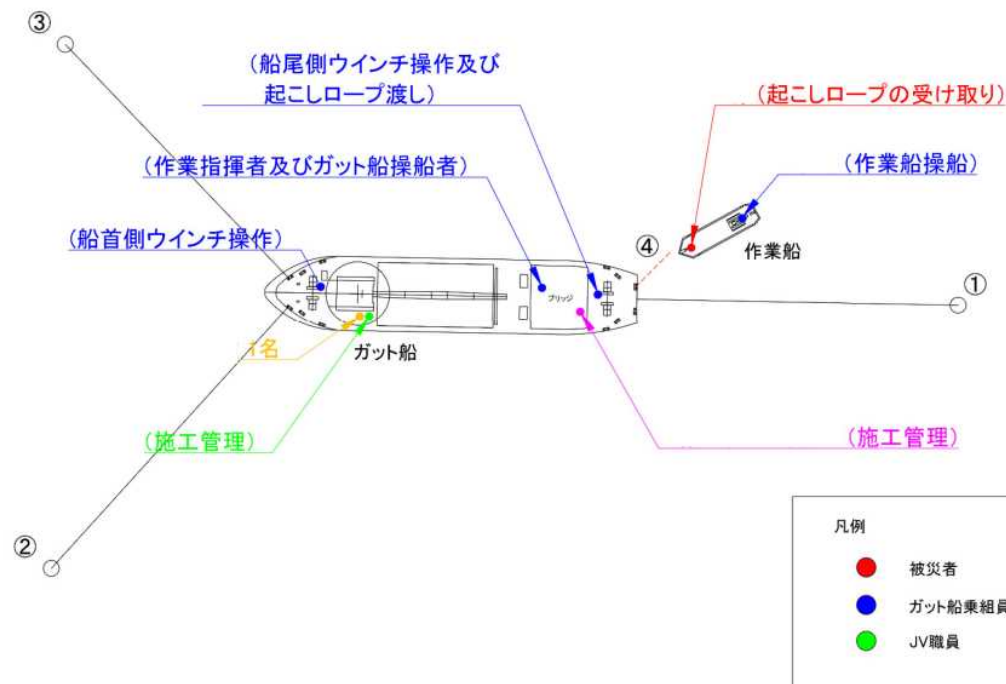
発生事例(その他;労災)

後退させる操船で船員がアンカーに接触して負傷

【事故概要】

ガット船のアンカー投錨作業において、少し降ろしたアンカーにアンカーロープが引っ掛かったため、ガット船のウインチ操作者と作業船の操船者、船員の3名で外す作業をしていたところ、作業船が潮流によりガット船に接近したため後退させる操船をした際、船員がアンカーに接触して負傷した。

発生状況



- 凡例
- 被災者
 - ガット船乗組員
 - JV職員

【発生原因】

- ① 非定常作業が発生した。(アンカーにアンカーロープが引っ掛かった。)
- ② 非定常作業の連絡報告の不徹底があった(作業指揮者に報告しなかった)
- ③ 作業手順の軽視(アンカーを水面下に下ろさなかった。引っ掛かりを自分たちで解決できると過信した。)
- ④ 共同作業者同士のコミュニケーション不足(引っ掛かり解除の確認、合図、声掛けの不足。)
- ⑤ 危険予知の欠如。(被災者はアンカーが高い位置にあるにも関わらず、アンカーと接触する危険を予知できなかった。)
- ⑥ 不安全行動があった。(アンカーロープの解除作業をするため、持ち場を離れた。(作業船の操船を離れた。))

【再発防止対策】

- ① 隣接するアンカー及びロープを干渉させない。
- ② ホウ・レン・ソウを徹底する。
- ③ 作業手順書の見直しと、順守することを再教育する。
- ④ 声掛け、合図確認を励行する。
- ⑤ 危険予知能力を向上させる。
- ⑥ 安全を優先させた行動をとるよう指導する。

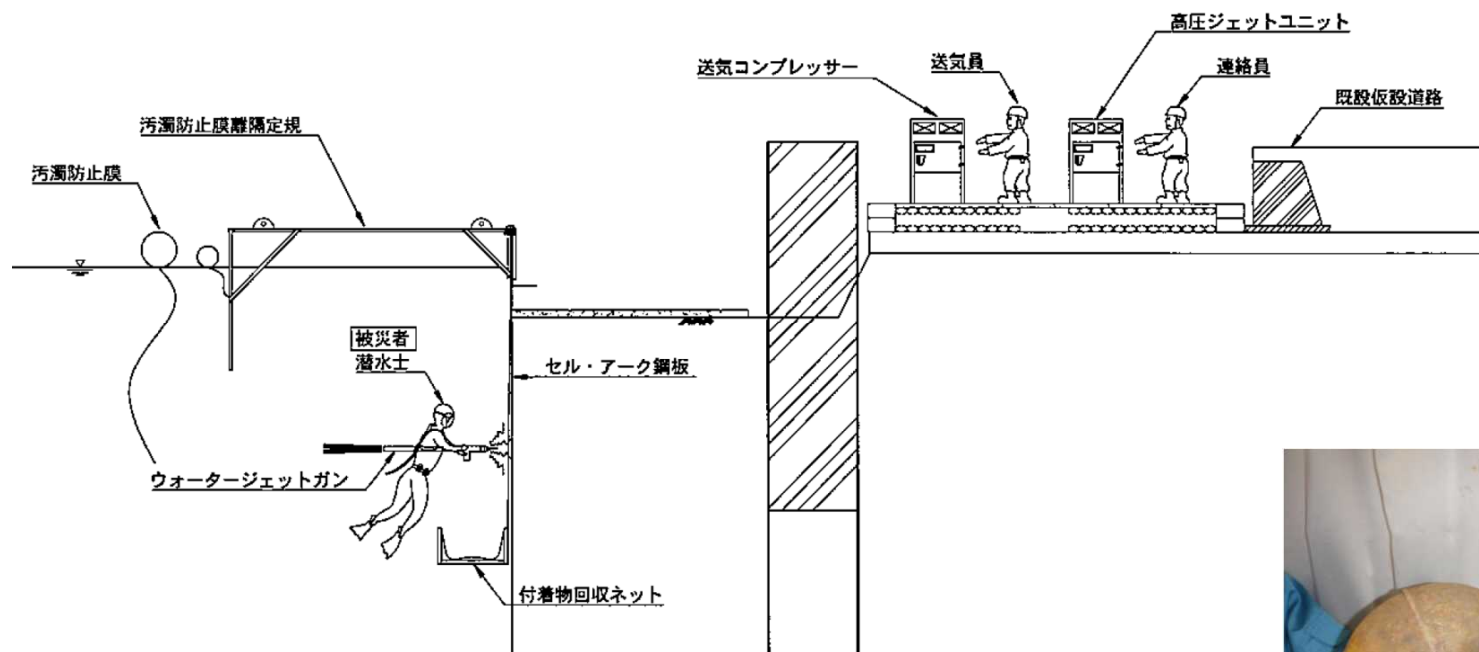
発生事例(その他;労災)

高圧ウォータージェットで手指を被災

【事故概要】

岸壁前面の付着物除去作業(潜水作業)において、潜水士が高圧ウォータージェットガンにて清掃作業中に、ジェットが左手指に接触した。

発生状況



ジェットガン持替→高水圧が左手に接触

【発生原因】

- ① 高圧ジェットガンを持替えるため左手を離した際に、高圧水に左手が接触した。
- ② 高圧ジェットの圧を下げないまま左手を離した。
- ③ 左手をジェット先端に出した。

【再発防止対策】

ガンの持替えや方向を変える際は、必ず送気員に連絡し、高圧ジェットの圧力を下げてから行う。

発生事例(その他;労災)

【事故概要】

熱中症になった。

【発生原因】

- ①気温が高く、敷鉄板上で作業であったため、照り返しが強かった。
- ②昼休憩が近くなったため、区切り良いところまで連続して作業した。結果として、水分補給タイミングが遅れた。

【再発防止対策】

- ①敷鉄板上で作業時は、送風機もしくはミストファンを設置する。
- ②塩飴(タブレットタイプ)及びジョグ等を各作業場所に配置する。
- ③場内散水を行う。
- ④熱中症防止対策チェックシートを使用し、作業員体調及び水分補給、塩分補給確認を行う。
- ⑤水分補給重要性を安全教育にて再周知する。
- ⑥繰り返し熱中症への注意喚起と水分補給指導を行う。

【事故概要】

減圧症(潜水病)になった。

【発生原因】

潜水計画及び実施並びに被災者本人の体調に問題はなく、原因の特定は出来なかった。

【再発防止対策】

- ①減圧表の1ランクアップで計画する。
- ②休憩時間を延長する。

